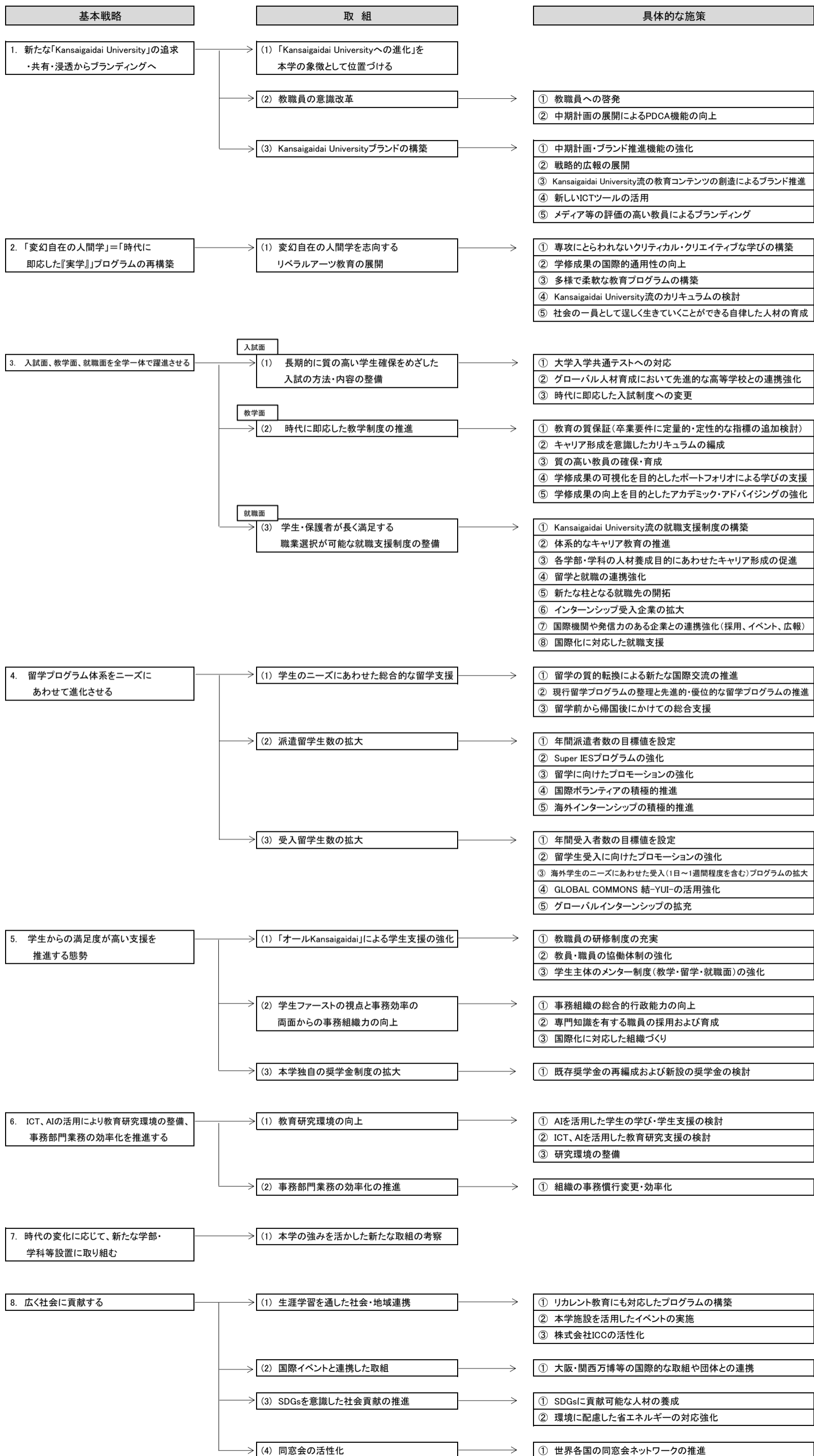


関西外国語大学ビジョン・中期計画



## 「関西外国語大学ビジョン・中期計画」 基本戦略を踏まえた具体的な取組・施策

### 【基本戦略】

「関西外国語大学ビジョン・中期計画」（以下「ビジョン・中期計画」）の基本戦略は以下のとおりである。

1. 新たな「Kansai Gaidai University」の追求・共有・浸透からブランディングへ
2. 「変幻自在の人間学」＝「時代に即応した『実学』」プログラムの再構築
3. 入試面、教学面、就職面を全学一体で躍進させる
4. 留学プログラム体系をニーズにあわせて進化させる
5. 学生からの満足度が高い支援を推進する態勢
6. ICT、AI の活用により教育研究環境の整備、事務部門業務の効率化を推進する
7. 時代の変化に応じて、新たな学部・学科等設置に取り組む
8. 広く社会に貢献する

### 【取組 / 具体的な施策】

上記 8 つの基本戦略に対して、それぞれの取組および具体的施策を次のとおり設定する。

#### 1. 新たな「Kansai Gaidai University」の追求・共有・浸透からブランディングへ

##### (1) 「Kansai Gaidai University への進化」を本学の象徴として位置づける

外国語大学から脱却し、他の大学とは一線を画した University をめざすべく、「Kansai Gaidai University への進化」という考え方を、基本戦略や取組を実現する上での中核とし、本学の全学的な象徴として位置づける。

##### (2) 教職員の意識改革

「Kansai Gaidai University への進化」という考え方を学内の組織全体に共有・浸透できるように、教職員に対して意識改革を図る。

##### ① 教職員への啓発

本学の現状や社会的役割、Kansai Gaidai University がめざすべき姿等を教職員自らが正しく理解し、ビジョン・中期計画への参加意識を高めるほか、教員・職員個々の職務を通じた自己実現や成長を促すために、学内啓発の取組を推進する。

## ② 中期計画の展開による PDCA 機能の向上

ビジョン・中期計画にのっとり、各委員会、各部署が所管する中期計画をさらに綿密に検討し、毎年度の事業計画を実行することで、全学的な PDCA 機能を向上させる。このサイクルを推進することにより、教職員が各々所属する部署の役割を自覚すると同時に、自身の役割・責任を認識する。

## (3) Kansai Gaidai University ブランドの構築

「Kansai Gaidai University への進化」を基盤とした他大学にはない本学独自の実学教育を、一つの突き抜けたブランドとして確立させ、それを学内外に向けて広く発信し、ブランディングの構築を図る。

### ① 中期計画・ブランド推進機能の強化

Kansai Gaidai University ブランドの構築をめざし、ビジョン・中期計画の確実な実行と推進を図るため、ブランド・マネジメントを担うブランド推進室等の設置も視野に入れ、ブランド推進機能を強化する。

### ② 戦略的広報の展開

Kansai Gaidai University の概念を、効率的かつ効果的に広く学外に認知させ、本学のブランド価値を高めるために戦略的な広報活動を展開し、様々な背景を持った学生の獲得につなげていく。広報戦略に精通した人材の採用、広告代理店の活用や株式会社 ICC の活用など、現状にとらわれない広報活動の展開をめざす。

### ③ Kansai Gaidai University 流の教育コンテンツの創造によるブランド推進

本学が有する教育資源をさらに進化させ、既存の枠組みや概念にとらわれない「学問・留学・就職」の有機的な連携のもと、本学独自の新たなプログラム・教育コンテンツを創造する。それら先進的な取組を学内外へ広く発信・提供することで、Kansai Gaidai University のブランド化を推進する。

### ④ 新しい ICT ツールの活用

学外へのブランディングとして、発信力が高いインターネットや SNS 等をはじめ、最新の ICT ツールを積極的に取り入れる。時代のニーズにあわせた斬新なプロモーションのほか、受験生や在学生にとって身近となっているスマートフォンを介したアプリとの連動など、ICT ツールを効果的に活用する。

### ⑤ メディア等の評価の高い教員によるブランディング

メディア等の評価が高く、Kansai Gaidai University のイメージにあった教員により、教育研究活動の向上を図るとともに、本学の知名度向上と対外的なブランディングを推進する。

## 2. 「変幻自在の人間学」＝「時代に即応した『実学』」プログラムの再構築

### (1) 変幻自在の人間学を志向するリベラルアーツ教育の展開

Kansai University という概念を支えるのが、「変幻自在の人間学」とも言えるリベラルアーツ教育である。時代の精神・息吹を柔軟に反映させながら、豊かな言語力を背景に、クリティカルかつクリエイティブに物事に取り組み、新たなものを創出する力を育成する。

#### ① 専攻にとられないクリティカル・クリエイティブな学びの構築

リベラルアーツ教育について、既存の大学・学部等に見られる分断的な学問体系にとられない、クリティカル・クリエイティブな学びを構築する。

#### ② 学修成果の国際的通用性の向上

グローバル人材の育成に鑑み、カリキュラムに基づいた国際教育を国内の学生のみならず、海外の学生にも幅広く提供するために、グローバルスタンダードを意識した授業内容を整備するほか、シラバスの国際的通用性を高めるなど、学修成果のさらなる向上を図る。

#### ③ 多様で柔軟な教育プログラムの構築

自己教育力や自己成長力、さらに卒業後まで見据えて、自己のキャリアを創造的に創り出すキャリア形成力等を育成する柔軟で幅広い教育プログラムを構築する。

#### ④ Kansai University 流のカリキュラムの検討

既存の学部・学科の強みを踏襲しつつ、これまで培ってきた国際教育のノウハウを活かし、国内だけでなく海外の学生や、これまで以上に習熟度が高い学生を魅了するような、Kansai University 流のカリキュラムの拡充を図る。

#### ⑤ 社会の一員として逞しく生きていくことができる自律した人材の育成

リベラルアーツの精神にのっとり社会的貢献に取り組み、社会の構成員としての人間力、付加価値、キャリアを身につけたグローバル社会に通用する逞しく品格のある人材を育成する。

### 3. 入試面、教学面、就職面を全学一体で躍進させる

#### 【入試面】

#### (1) 長期的に質の高い学生確保をめざした入試の方法・内容の整備

外国語大学からの脱却をめざし、受験生が有する特定の学問系統に左右されることなく、多様な背景を持った優秀かつ人間性にも優れた学生を長期的・安定的に確保する。そのために、大学入試の方法・内容の整備を行い、より質の高い学生の獲得を図ることで、入学後の学びの躍進につなげる。

#### ① 大学入学共通テストへの対応

2021年1月から大学入試センターにおいて新たに導入される「大学入学共通テスト」に対応し、より質の高い学生を獲得できる入試制度を構築する。

#### ② グローバル人材育成において先進的な高等学校との連携強化

グローバル人材育成において先進的な取組を行っている高等学校との連携を強化し、留学をはじめ本学の多彩な国際交流プログラムを活性化させる。

#### ③ 時代に即応した入試制度への変更

「新学習指導要領」で学んできた生徒が大学に入学してくる2024年度を見据えるとともに、より質の高い学生を確保できるような入試制度への変更を行う。

#### a. 他大学と競合する受験生の確保

本学への入学志願者層のさらなる拡大を目的に入試方法・内容の整備を行う。リベラルアーツ教育に高い関心を示す総合大学等を志望する受験生の併願が期待できる出題形式や入試制度を取り入れることで、新たな視点での受験生の獲得をめざす。

#### b. 外国人学生の確保を可能にする入試制度の導入

Kansai Gaidai University の概念に鑑み、今後は国内だけでなく世界を視野に入れ、多様な背景を持った日本語を母語としない学習意欲の高い学生を本科（学部）へ入学させるような仕組みや新たな入試制度の導入など、外国人学生の受入環境の整備を図る。

#### c. 3年次編入学による習熟度の高い学生の受入

学習意欲の高い学生を3年次編入学させるような仕組みや留学制度の拡充など、国内外から短期大学・コミュニティカレッジ卒業生の受入環境を整備する。

## 【教学面】

### (2) 時代に即応した教学制度の推進

時代に即応した実学教育を具現化するために、既存の学問体系にとらわれない、Kansai University 流の学際的な教育プログラムを提供する。さらに、学部・学科などの特性を活かした魅力的な教学支援を推進する。

#### ① 教育の質保証（卒業要件に定量的・定性的な指標の追加検討）

学位の国際通用性を高めるために、卒業所要単位数の修得のほか、民間の外国語資格・検定試験とは違う、卒業時まで身に付けなければならない力を測定するための定量的・定性的な指標の開発に取り組み、教育の質保証を確保する。

#### ② キャリア形成を意識したカリキュラムの編成

学生のキャリア形成をより意識し、卒業後に各学部・学科のディプロマ・ポリシーを体現し、活躍できるような、幅広い職業選択を想定した授業内容や科目の設定をはじめ、キャリアへの動機づけにつながるカリキュラム編成等を推進し、教学面と就職面の連携を強化する。

#### ③ 質の高い教員の確保・育成

「Kansai University への進化」という考え方を学内に浸透させ、FD 活動等を通して教員個々の指導力を強化すると同時に、本学の取組に賛同いただける専門性の高い教員を国内・海外から積極的に採用および育成することで、教育力と研究力両面の底上げを図る。

#### ④ 学修成果の可視化を目的としたポートフォリオによる学びの支援

卒業要件を満たした学生に対し、学位授与に加え、入学から卒業までに身につけた Kansai University 流の多様な学びや成果内容を可視化できる仕組みを構築する。ポートフォリオによる学びの支援を推進し、授業の学修履歴以外にも、留学やインターンシップ、ボランティア活動等さまざまな視点で学生が在学中に身につけた経験値をポートフォリオで蓄積し、学修成果の可視化の一環として学生が自らの成長を認識するとともに、その成果を大学が認定するなど、就職活動の効果的なアイテムとしても活用させる。

#### ⑤ 学修成果の向上を目的としたアカデミック・アドバイジングの強化

事情により大学の授業についていけない学生や進級・卒業に不安を抱える学生等に対する教育的サポートを強化し、留年や退学者を未然に防ぐための対策を講じることで学生全体の学修成果の向上を図る。留学資格審査に不合格となった学生や成績不良者等に対して適切な指導を行うなど、現在のアドバイザー制度を踏襲しつつ、教員によるアカデミック・アドバイジングを強化する。

## 【就職面】

### (3) 学生・保護者が長く満足する職業選択が可能な就職支援制度の整備

学生の自律を促進させ、将来の職業選択やキャリアへの意識形成が低年次から行えるよう、低年次から卒業年次にわたる体系的なキャリア教育を推進し、生涯にわたって学生・保護者から高い満足が得られるよう、幅広い職業選択が可能な就職支援制度を整備する。

#### [キャリア教育について（参考）]

本学のキャリア教育は以下の二点の側面を持つ。

- (教学面の施策) ・全科目にキャリアへの動機づけにつながる要素を取り入れ、カリキュラムを編成する。
- (就職面の施策) ・「キャリア・デザイン」、「キャリア形成」等の科目と各種就職支援の連携により、低年次からのキャリア形成を行う。

#### ① Kansai Gaidai University 流の就職支援制度の構築

Kansai Gaidai University の教育指針に賛同する企業を開拓し、採用枠等の獲得をめざす。留学中の学生はもちろん、留学予定者や海外インターンシップ、国際ボランティア等、本学のカリキュラムを含む多様なプログラムを経験する学生が、学年や時期に関係なく内定を獲得するなど、従来の新卒一括採用にとらわれない本学独自の就職の枠組みの構築を図る。

#### ② 体系的なキャリア教育の推進

体系的なキャリア教育・就職支援「キャリア・デザイン・プログラム」について、正課授業や留学等と就職支援制度の連携の拡大を図ることで、学生が低年次から自らの人生観・職業観を養う機会の増加を図る。

#### ③ 各学部・学科の人材養成目的にあわせたキャリア形成の促進

各学部・学科の人材養成目的にあわせ、学生が授業で得た学びを発展させ、ひいてはキャリア形成に結びつくような、企業人との交流会やインターンシップ等の機会を設ける。

#### ④ 留学と就職の連携強化

就職と留学を切り離して捉えるのではなく、将来のキャリアを見据えて、留学先で得た教養や身につけたグローバル力が帰国後の就職活動ひいては卒業後のキャリアに効果的に結びつくよう、留学を前提とした事前事後の就職支援を推進する。

#### ⑤ 新たな柱となる就職先の開拓

本学の就職実績として定評があるエアラインやホテル等と肩を並べられるような、外資系やグローバル企業等、本学学生が卒業後に各学部・学科のビジョンを体現し、活躍できるような、広報戦略上でも柱となる、訴求力の高い企業等への就職実績をつくるべく、企業等の開拓を積極的に推進する。

#### ⑥ インターンシップ受入企業の拡大

学生が実際の現場で就労体験を行う「企業インターンシップ」について、国内・海外・有給・無給に関わらず、受入先企業をさらに拡大し、在学中の学生が職業観を醸成する上で有益となるような多様なインターンシッププログラムを推進する。

#### ⑦ 国際機関や発信力のある企業との連携強化（採用、イベント、広報）

グローバル人材育成を後押しするような社会的知名度の高い国際機関や企業とのコラボレーションを積極的に実施し、学生への効果的なキャリア支援を行うほか、該当企業との継続的な関係性を構築することで、産学連携の相乗効果を図る。

#### ⑧ 国際化に対応した就職支援

留学生別科に在籍する学生や、外国人を含む外国語運用能力が高い学生を対象とした就職アドバイスやキャリア支援を強化し、Kansai University ならではの学生を、これまで就職が困難であった特定の業界や外資系企業等へ輩出する。

### 4. 留学プログラム体系をニーズにあわせて進化させる

#### (1) 学生のニーズにあわせた総合的な留学支援

教育の多様化が進展する中、留学プログラムに関しては長年培ってきた本学の国際教育の実績やノウハウを最大限活かしつつ、「Kansai University への進化」を具現化するために、今後は学生の個性や将来へのキャリア等をより意識したプログラムのほか、内なる国際化を推進するなど、学生のニーズにあわせた総合的な留学支援を行う。

#### ① 留学の質的転換による新たな国際交流の推進

海外に移動し学修するという一般的な留学の概念にとらわれることなく、「内なる国際化」をめざして海外の学びをキャンパス内で実践するなど、新たな国際交流のスタイルを創造し、留学の質的転換を図る。学生には、海外への渡航を伴う多様な留学プログラムを推進すると同時に、学修や経験が学内・国内で完結する Kansai University 流の先進的な留学システムの構築をめざす。



## ② 現行留学プログラムの整理と先進的・優位的な留学プログラムの推進

海外協定大学との学術的連携を活用した多岐にわたる留学プログラムは、学部・学科の特性を見極めながら、その都度内容の見直しと整理を行い、リベラルアーツ教育の進化をめざした他大学にはない先進的・優位的な留学プログラム体系を推進する。

## ③ 留学前から帰国後にかけての総合支援

留学での学びがその後の就職活動やキャリア形成に効果的に結びつくよう、教学面・就職面の両方からの観点を含め、留学前・留学中・留学後の体系的な支援を徹底し、実社会で長く活躍できる留学を通じた、より質の高いグローバル人材の育成に努める。

## (2) 派遣留学生数の拡大

本学の強みである実践的な国際教育について、リベラルアーツ教育に根差した留学サポートをあらゆる面で強化し、オンリーワンの国際教育を通してさらに多くの学生を海外へ派遣するために、以下の施策により年間の派遣留学生数を大幅に拡大する。

### ① 年間派遣者数の目標値を設定

留学プログラムを学生のニーズにあわせて進化させ、質と量が伴ったグローバル人材の育成を達成するための客観的な成果目標として、2030年度の派遣留学生数を年間3,000人に設定、向こう5年間の2025年度までには年間2,500人まで増大させる。

### ② Super IESプログラムの強化

特定の海外協定大学と協働で運用している「Super IESプログラム」について、継続的な内容の見直しを行うほか、対象大学との連携を強化し、プログラムを拡充することで長期留学をめざす学生を最大限後押しする。

### ③ 留学に向けたプロモーションの強化

学内での定期的な留学ガイダンスのほか、より積極的な留学情報の開示や留学生との交流、先輩学生によるワークショップの実施など、学生への自律した留学計画や動機づけにつながるようなプロモーションを積極的に行い、留学希望者数の底上げを図る。

### ④ 国際ボランティアの積極的推進

留学の概念を海外でのアカデミックな学修に限定せず、プラクティカルな学びが体験できる国際ボランティアもリベラルアーツ教育の一環として捉え、活動時間数に関わらず、学生が海外で得た知識や経験を学内で評価するなど、積極的に推進する。

### ⑤ 海外インターンシップの積極的推進

海外インターンシップについても、海外で多様な就労経験が得られることから、留学と就職の側面を兼ね備えたりベラルアーツ教育の一環として捉え、これまで以上にインターンシッププログラムを積極的に推進する。

## (3) 受入留学生数の拡大

海外協定大学との強い信頼関係をもとに「留学生別科」をより魅力的なプログラムへと発展させ、グローバルスタンダードな授業や受入体制等を引き続き強化し、全世界からさらに多くの外国人留学生を受け入れ、年間の受入留学生数を大幅に拡大する。

### ① 年間受入者数の目標値を設定

留学生別科を中心とした本学の国際教育を留学生のニーズにあわせて進化させ、客観的な成果目標として、2030年度の海外からの受入留学生数を年間1,000人に設定、向こう5年間の2025年度までには年間850人まで増大させる。これにより、学内のさらなる国際化へつなげる。

### ② 留学生受入に向けたプロモーションの強化

留学生別科専用ホームページを通じた情報発信や教職員による定期的な国際会議への出席、理事長・学長をはじめとした教職員による協定大学への表敬訪問など、海外大学との友好的な国際交流を築きつつ、優秀な留学生を継続的に確保するためのプロモーションを強化する。

### ③ 海外学生のニーズにあわせた受入（1日～1週間程度を含む）プログラムの拡大

日本へ留学を希望する学習意欲が高い学生のニーズに応えるために、最低4カ月の在籍が必要となる通常の留学生別科とは別に、1日から1週間程度を含む短期間の受入プログラムやファカルティレッドプログラム等を拡大し、より多くの留学生を受け入れる。

### ④ GLOBAL COMMONS 結-YUI-の活用強化

留学生と本学学生が「学・食・住」を共にし、多様な文化や価値観の修得が日常生活の中で可能となる「GLOBAL COMMONS 結-YUI-」の教育資源を最大限に活用し、海外の学生にとって日本での留学生活がより有益となるよう、環境の整備、教育サービスを強化する。

### ⑤ グローバルインターンシップの拡充

日本の企業や学校教育機関等での就労体験に関心を持つ留学生を海外から誘致するために、グローバルインターンシップの受入先をさらに拡大し、必要に応じて留学生に対して日本での就職支援を行うなど、プログラムの推進に取り組む。

## 5. 学生からの満足度が高い支援を推進する態勢

### (1) 「オール Kansaiigaidai」による学生支援の強化

学生が4年間または2年間の大学生活を有意義に過ごせるよう、学部・学科の特性に応じて、授業を通じた支援を行うほか、学生生活全般に係る全学的な学生支援の向上を図るために、教職員が部署や職位の垣根を超えて組織一丸となって学生を育成していく、「オール Kansaiigaidai」による支援を推進する。

#### ① 教職員の研修制度の充実

学生満足度のさらなる向上をめざして、教職員は自らの自己研鑽に励むと同時に、より質の高い授業や学生支援が継続的に行えるよう、グローバルスタンダードな教育に根差した教員の教育力や、職員のスキル向上等を目的に、教職員を対象としたFD・SD活動による研修制度を一層充実させる。

#### ② 教員・職員の協働体制の強化

健全でスムーズな大学運営を行うためには、強い信頼関係に基づく教学組織と事務組織の連携や相互支援等が必要不可欠であり、「オール Kansaiigaidai」のもと、各種業務を通じた教員・職員による協働体制を強化する。

#### ③ 学生主体のメンター制度（教学・留学・就職面）の強化

教職員による学生支援を補完する役割として、より身近な学生同士によるメンター制度を推進し、低年次の学生が留学経験者や就職活動を終えた先輩学生から有益な情報・アドバイスを得るなど、学生が主体となった学生生活支援のプログラムを強化する。

### (2) 学生ファーストの視点と事務効率の両面からの事務組織力の向上

事務部門に係る業務にあたっては、学生への教育効果や効率等を常に意識し、適切なサポートを通して、学生の高い満足度につながるよう、学生ファーストの視点と事務効率の両方の視点を持ち、事務組織力の向上に取り組む。

#### ① 事務組織の総合的行政能力の向上

事務組織については、各部署の役割機能に加えて、多様化する業務に必要な部署間の連携や相互支援、情報共有等がよりスムーズに行えるよう、前例にとらわれない体制づくりを強化し、一部業務のアウトソーシング化の検討も含め、組織の総合的な行政能力を向上させる。

## ② 専門知識を有する職員の採用および育成

本学のさらなる発展をめざし、高度なプロジェクトや業務等を推進する上で必要となる特定の分野に関する専門知識や豊富な経験を有する職員を必要に応じて採用および育成し、組織を強化する。

## ③ 国際化に対応した組織づくり

「Kansai Gaidai University への進化」を推進する中で、今後は日本人だけでなく、多様な国籍や文化背景、個人の特長等を持った学生が増えていくことが予想され、多様化する学生に対して適応できる、国際化に対応した組織づくりを推進する。

### a. 職員の国際感覚の醸成

グローバル人材を育成する大学として、各部署がそれぞれの役割の中で国際機能を果たすために、幅広く柔軟な発想を持ち合わせた組織運営をめざすとともに、職員にあっては、内なる国際化を意識し、自己の外国語運用能力の向上に努めるなど、日常業務における国際感覚の醸成を図る。

### b. 外国人職員の採用拡大

一定の言語運用能力や高い専門性が求められる業務への対応等を目的に、外国語を母語とする職員を積極的に採用し、学内事務組織の国際化の一助とする。

## (3) 本学独自の奨学金制度の拡大

政府が推進する「高等教育の修学支援新制度」に対応するほか、社会経済の実態等を踏まえながら、支給奨学金の規模を総額 14 億円、支給対象者を延べ 2,000 人程度に設定し、本学独自の奨学金制度の拡大を図る。

## ① 既存奨学金の再編成および新設の奨学金の検討

学習意欲の高い学生を経済面で支援することを目的に、留学に伴う既存のスカラシップ制度のほか、成績優秀者や経済的困窮者に対する奨学金など、本学独自の奨学金制度を再編成する。

## 6. ICT、AI の活用により教育研究環境の整備、事務部門業務の効率化を推進する

### (1) 教育研究環境の向上

高等教育機関に関する教育研究の分野において、ますます発展する ICT や AI を取り入れた教育研究活動が、大学教員・研究者のみならず、学生サービス支援に対しても有効に機能するよう、教育研究環境の整備と向上を図る。

### ① AI を活用した学生の学び・学生支援の検討

学生の窓口対応や電話対応を補助する役割として、大学の基本情報や各部署に関連した質問等を膨大なデータとして AI に蓄積し、学生に向けた Q&A システムの要素を含んだチャットボット等による学生支援サービスの拡大を図る。

### ② ICT、AI を活用した教育研究支援の検討

ICT や AI による学生教育に一定の定評がある海外の協定大学をモデルにするなど、本学の教育研究水準を高めるために、協定校を含む他大学への教員派遣や意見交換等、教員の通常授業に大幅な支障をきたさない範囲での大学間の学術的連携を図る。

### ③ 研究環境の整備

大学教員の研究活動に有益となる ICT、AI に関連した設備機器を必要に応じて取り入れるなど、教員の研究環境の整備を図り、総合的な研究力を向上させることで、質の高い教員確保につなげる。

## (2) 事務部門業務の効率化の推進

ICT や AI の技術を事務部門（業務）にも幅広く有効活用し、事務の質や量、処理スピード等を向上させ、学生に対してより質の高いサービスを提供するとともに、教職員の事務負担の軽減および作業の効率化を推進する。

### ① 組織の事務慣行変更・効率化

ネットワークやデータベース等を積極的に活用し、各部署が取り扱う定型業務をはじめ、事務的に複雑な処理や紙ベースを主とする一部の業務をシステム化するなど、これまでの慣行や前例にとらわれない事務の見直しを図る。

## 7. 時代の変化に応じて、新たな学部・学科等設置に取り組む

### (1) 本学の強みを活かした新たな取組の考察

大学を取り巻く環境が一層厳しくなる中で国際競争に勝ち抜いていくためには、「Kansai Gaidai University への進化」の視点に基づく、本学の強みを最大限活かし時代を先取りした取組が重要であり、新たな教育資源やマーケットの拡大を目的に、新学部・学科の開設、他大学（他学部）の M&A など、社会のニーズを確認しながら、必要に応じて考察していく。

## 8. 広く社会に貢献する

### (1) 生涯学習を通じた社会・地域連携

社会のニーズを確認しながら、地域住民、社会人対象の各種プログラムの構築に取り組み、生涯学習を通じた社会・地域連携を図る。

#### ① リカレント教育にも対応したプログラムの構築

本学が有する国際教育力を有効活用し、ネイティブ教員によるビジネス英会話や特別授業を実施するなど、地域社会への教育支援を通して講師の教育研究活動の向上を図ると同時に、主に社会人を対象としたリカレント教育の一環となるプログラムの構築に取り組む。

#### ② 本学施設を活用したイベントの実施

「GLOBAL COMMONS 結 -YUI-」をはじめとする本学の教育施設を活用し、地域住民や子ども達に対して外国人や英語に触れる機会を提供するなど、取組を通して本学学生の教育効果の向上にもつながるようなイベント等を実施する。

#### ③ 株式会社 ICC の活性化

地域社会の幅広い年齢層を対象とした、株式会社の特性を活かした、学校法人では実施が困難な事業や取組等について、分業化を図り、株式会社 ICC を活性化させる。

### (2) 国際イベントと連携した取組

本学が有する国際教育力を中心とした知的財産を、広く社会に還元するために各種国際イベントの開催時に本学の学生を派遣するなど、運営に際して積極的な協力と連携に取り組む。

#### ① 大阪・関西万博等の国際的な取組や団体との連携

2025年に開催される「大阪・関西万博」は、世界各国から数百万人の訪日外国人の来場が予想され、グローバルな教養を身につけた学生が持つ人的資源は必要不可欠であり、外国語を伴う企画運営、開催時の通訳や案内支援など、各団体・企業等と連携し、体系的な育成やサポートを展開する。

### (3) SDGs を意識した社会貢献の推進

本学では高等教育機関として、国連がグローバル目標として掲げている持続可能な開発目標「Sustainable Development Goals (SDGs)」を意識し、豊かな社会・環境の実現に寄与できる社会貢献を推進する。

① **SDGs に貢献可能な人材の養成**

持続可能な社会を実現するための指針となる 17 の目標等の理解を深めるために、講義や講演等を通して、SDGs を学生や地域社会に広く推進し、より良い社会や環境の実現に向けて考察できる人材の育成をめざす。

② **環境に配慮した省エネルギーへの対応強化**

大学運営にあたっては、地球温暖化や環境保全への対策に鑑み、本学が有する施設設備の利用の際は、節電をはじめ、可能な限りエネルギー消費量を抑えるなど、省エネルギーへの対策を強化する。

(4) **同窓会の活性化**

卒業生同士による異業種交流や新たな人脈形成の一助とするなど、本学と同窓会の友好的な交流および相互支援を通して、幅広い分野での卒業生への生涯教育や社会貢献に寄与すべく、本学卒業生で構成された同窓会をさらに活性化させる。

① **世界各国の同窓会ネットワークの推進**

国内のみならず、海外で働く本学卒業生や留学生別科を修了した外国人同窓生との結びつきを強め、世界各国でグローバルに活躍する同窓生とのネットワークづくりを推進する。

以上